

## <参考資料>

「鎌ヶ谷市第2期教育振興基本計画」を策定するに当たり、基本となる考えを示したものとして、国の第2期教育振興基本計画並びに千葉県の第2期教育振興基本計画（新みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン）があげられる。

本市の計画を策定する参考資料として、両計画を載せる。

# 第2期教育振興基本計画(答申)第1部 総論 概要 ~我が国の危機回避に向けた4つの基本的方向性~

※教育振興基本計画:教育基本法第17条第1項に基づき政府が策定する,教育の振興に関する総合計画(第2期計画期間:平成25~29年度)

## 教育行政の4つの基本的方向性

→ 改正教育基本法の理念を踏まえ教育再生を実現するため、各学校段階を貫く視点を設定し、成果目標・指標、具体的方策を体系的に整理(次頁参照)。

### 1. 社会を生き抜く力の養成

~多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力~  
→ 「教育成果の保証」に向けた条件整備

### 2. 未来への飛躍を実現する人材の養成

~変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材~  
→ 創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、日本人としてのアイデンティティ、語学力・コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験・切磋琢磨の機会の増大、優れた能力と多様な個性を伸ばす環境の醸成

### 3. 学びのセーフティネットの構築

~誰もがアクセスできる多様な学習機会を~  
→ 教育費負担軽減など学習機会の確保や安全安心な教育研究環境の確保

### 4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

~社会が人を育み、人が社会をつくる好循環~  
→ 学習を通じて多様な人が集い協働するための体制・ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、人々が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境整備

#### (共通理念)

- ◆ 教育における多様性の尊重
- ◆ 社会全体の「横」の連携・協働
- ◆ ライフステージに応じた「縦」の接続
- ◆ 現場の活性化に向けた国・地方の連携・協働

#### (教育投資の在り方)

- ◆ 現下の様々な教育課題を踏まえ、今後の教育投資の方向性としては、以下の3点を中心に充実を図る。
  - ・ 協働型・双方向型学習など質の高い教育を可能とする環境の構築
  - ・ 家計における教育費負担の軽減
  - ・ 安全・安心な教育研究環境の構築(学校施設の耐震化など)
- ◆ 教育の再生は最優先の政策課題の一つであり、欧米主要国を上回る質の高い教育の実現が求められている。このため、将来的には恒久的な財源を確保しOECD諸国並みの公財政支出を行うことを目指しつつ、第2期計画期間内においては、各成果目標の達成や基本施策の実施に必要な予算について財源を措置し、教育投資を確保していくことが必要。

#### (危機回避シナリオ)

- 個々人の自己実現、社会の「担い手」の増加、格差の改善(若者・女性・高齢者・障害者などを含め、生涯現役、全員参加に向けて個人の能力を最大限伸長)
- 社会全体の生産性向上(グローバル化に対応したイノベーションなど)
- 一人一人の絆の確保(社会関係資本の形成)
- 一人一人が誇りと自信を取り戻し、社会の幅広い人々が実感できる成長を実現

### 我が国を取り巻く危機的状況

相互に関連

#### ○少子化・高齢化の進展

- ・ 生産年齢人口の減少(2060年には、我が国の人口は2010年比約3割減の約9千万人まで減少。そのうち4割が65歳以上の高齢者。)
- ・ 経済規模縮小、税収減、社会保障費の拡大
- 社会全体の活力低下

#### ○グローバル化の進展

- ・ 人・モノ・金・情報等の流動化
- ・ 「知識基盤社会」の本格的到来
- ・ 新興国の台頭等による国際競争の激化
- ・ 生産拠点の海外移転による産業空洞化
- 我が国の国際的な存在感の低下

#### ○雇用環境の変容

- ・ 終身雇用・年功序列等の変容
- ・ 企業内教育による人材育成機能の低下
- 失業率、非正規雇用の増加

一方で...

#### 【我が国の様々な強み】

- 多様な文化・芸術や優れた感性
- 科学技術、「ものづくり」の基盤技術
- 勤勉性・協調性、思いやりの心
- 基礎的な知識技能の平均レベルの高さ
- 人の絆

東日本大震災により一層の顕在化・加速化

#### ○地域社会、家族の要容

- ・ 地域社会等のつながりや支え合いによるセーフティネット機能の低下
- ・ 価値観・ライフスタイルの多様化
- 個々人の孤立化、規範意識の低下

#### ○格差の再生産・固定化

- ・ 経済格差の進行→教育格差→教育格差の再生産・固定化(同一世代内、世代間)
- 一人一人の意欲減退、社会の不安定化

#### ○地球規模の課題への対応

- ・ 環境問題、食料・エネルギー問題、民族・宗教紛争など様々な地球規模の課題に直面しており、かつてのような物質的豊かさのみの追求という視点から脱却し、持続可能な社会の構築に向けて取り組んでいくことが必要。

#### 【震災の教訓(危機打開に向けた手がかり)】

- 諦めず、状況を的確に捉え自ら考え行動する力
- イノベーションなど未来志向の復興、社会づくり
- 安心して必要な力を身に付けられる環境
- 人々や地域間、各国間に存在するつながり、人と自然との共生の重要性

#### 【第1期計画の評価】

- 第1期計画で掲げた「10年を過ぎて目指すべき教育の姿」の達成はまだまだ途上。
  - ・ 様々な取組を行ったが、学習意欲・学習時間、低学力層の存在、グローバル化等への対応、若者の内向き志向、規範意識・社会性等の育成など依然として課題が存在。
  - ・ 一方、コミュニティの協働による課題解決や教育格差の問題など新たな視点も浮上。
  - 背景には、「個々人の多様な強みを引き出すという視点」「学校段階間や学校・社会生活間の接続」「十分なPDCAサイクル」の不足など

### 今後の社会の方向性

⇒ 成熟社会に適合し知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会を実現

## 創造

自立・協働を通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

## 自立

一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り開いていくことのできる生涯学習社会

## 協働

個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、ともに支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会

# 第2期教育振興基本計画(答申)第2部 各論 概要 ~4のビジョン, 8のミッション, 30のアクション~

(★成果指標の例, ◆基本施策の例)

(基本的方向性)

(成果目標)

(基本施策)

## 1 社会を生き抜く力の養成

### 1 生きる力の確実な育成(幼稚園~高校)

⇒ 生涯にわたる学習の基礎となる「自ら学び、考え、行動する力」などを確実に育てる。

★国際的な学力調査でトップレベルに

★いじめ、不登校、高校中退者の状況改善 など

- ◆新学習指導要領を踏まえた言語活動等の充実
- ◆ICTの活用などによる協働型・双方向型学習の推進
- ◆各地域の実情を踏まえた土曜日の活用促進
- ◆高校段階での到達度テスト導入など高校教育の改善・充実
- ◆道徳教育の推進(「心のノート」の充実・配布、道徳の教科化の検討)
- ◆いじめ、暴力行為等の問題への取組の徹底
- ◆教員の資質能力向上(養成・採用・研修の一体的な改革)
- ◆全国学力・学習状況調査(全数調査の継続実施)
- ◆子どもの成長に応じた柔軟な教育システム等の構築に向けた、学制の在り方を含めた検討 など

### 2 課題探求能力の修得(大学~)

⇒ どんな環境でも「答えのない問題」に最善解を導くことができる力を養う。

★学生の学修時間の増加(欧米並みの水準) など

- ◆学生の主体的な学び確立による大学教育の質的転換(アクティブラーニング、教員サポート等)
- ◆大学情報の積極的発信
- ◆点からプロセスによる質保証を重視した高大接続(高校段階での到達度テストの結果の活用を含め、志願者の意欲・能力・適性等の多面的・総合的な評価に基づく入試への転換 など)

### 3 自立・協働・創造に向けた力の修得(生涯全体)

⇒ 社会を生き抜くための力を生涯を通じて身に付けられるようにする。

- ◆現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進
- ◆学校内外における様々な体験活動・読書活動の推進
- ◆学習の質の保証と学習成果の評価活用を推進(評価・情報公開の仕組みの構築・普及、教育支援人材の認証制度の推進など) など

### 4 社会的・職業的自立に向けた力の育成

★進路への意識向上や雇用状況(就職率、早期離職率等)の改善に向けた取組の増加(インターンシップ等の実施状況の改善、大学等への社会人入学者倍増)など

- ◆体系的・系統的なキャリア教育の充実
- ◆大学・専修学校等における分野別到達目標の普及、第三者評価制度の構築
- ◆学生等への就職支援体制強化
- ◆社会人(キャリアアップを目指す社会人、出産等により離職したが再就職を希望する女性など)の学び直しの機会の充実 など

## 2 未来への飛躍を実現する人材の養成

### 5 新たな価値を創造する人材、グローバル人材等の養成

★大学の国際的な評価の向上

★英語力の目標を達成した中高生や英語教員の割合増加

★日本の生徒・学生の海外留学者数・外国人留学生数の増加 など

- ◆高校段階における早期卒業制度の検討
- ◆外国語教育の強化や留学生交流・国際交流の推進、大学等の国際化のための取組の支援
- ◆大学院教育の抜本的改革の支援 など

### 3 学びのセーフティネットの構築

### 6 意欲ある全ての者への学習機会の確保

★経済状況によらない進学機会の確保

★家庭の経済状況等が学力に与える影響の改善 など

- ◆各学校段階を通じた切れ目のない教育費負担軽減(幼児教育の負担軽減・無償化の検討、義務教育段階の就学援助の実施、低所得世帯等の高校生への修学支援の充実、低所得世帯等の大学生、専門学校生への支援の充実)
- ◆挫折や困難を抱えた子ども・若者の学び直しの機会を充実 など

### 7 安全・安心な教育研究環境の確保

★学校施設の耐震化率の向上

(公立・国立については平成27年度までの耐震化の完了)

★学校管理下における事件・事故災害で負傷する児童生徒等の減少 など

- ◆学校の耐震化、非構造部材の耐震対策を含む防災機能強化、老朽化対策の推進
- ◆主体的に行動する態度を育成する防災教育等の学校安全に関する教育、地域社会・家庭・関係機関と連携した学校安全の推進 など

### 4 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

### 8 互助・共助による活力あるコミュニティの形成

★全校校区に学校と地域の連携・協働体制を構築

★コミュニティ・スクールを全公立小中学校の1割に拡大

★全校等で評価、情報提供 など

- ◆コミュニティ・スクール、学校支援地域本部等の普及
- ◆大学等のセンター・オブ・コミュニティ構想(COC構想)の推進
- ◆家庭教育支援体制の強化 など

## 4つの基本的方向性を支える環境整備

- ◆教育委員会の抜本的改革
- ◆きめ細かくて質の高い教育のための教職員等の指導体制の整備
- ◆大学におけるガバナンスの機能強化
- ◆大学の財政基盤の強化と施設整備
- ◆私立学校の振興
- ◆社会教育推進体制の強化 など

東日本大震災からの  
復旧・復興支援

# 新みんなを取り巻く「教育立県をば」プラン

## 千葉県教育の目指す姿

### 元気の子ども

学校・地域における様々な体験を通して  
**道徳性**と  
**豊かなコミュニケーション能力**を  
身に付け、  
郷土と国に **誇りと愛着**を持ち、  
**確かな学力**を伸ばし  
バランスのとれた生活習慣を身に付け  
**健やか**で、  
**自己肯定感**  
にあふれた子どもが育っている



### 元気の県民

地域に **元気** あふれた  
**「元気な千葉県」**  
**運動**に親しみ  
**文化活動**を通じて  
**心豊かに暮らし**、  
スポーツや文化、芸術で  
**活躍**する人が増え、  
伝統文化に現代的要素が融合した  
**ちば文化の魅力**が高まり、  
一人一人が、千葉県に **愛着や誇り**  
を感じられるようになっている



### 元気の学校・家庭・地域

子育てや家庭教育を **相談する環境**が整って **家庭の教育力**が高まり、  
子どもや若者の成長を支える **地域コミュニティ**が形成され、  
**元気で明るいあいさつの声**が響いている  
**個性**が輝き、**希望や能力**を引き出す学習環境が整い、  
**いじめや暴力に悩むことなく**、子どもたちが **楽しく学校に通い**、  
障害のある子どもない子ども **共に学び**、地域に **笑顔**があふれている  
困難を抱えた **子どもや若者**が、周りの支援によって **生き生きと仕事**をし、有害な環境を  
なくす取組が進められている



## 千葉県教育をめぐる現状



### 人口減少・少子高齢化

核家族化、家庭の果たす役割の変化、  
若者が乳幼児にふれる機会の減少

### 地域コミュニティの変容

子どもや家庭の孤立化、  
地域における交流の場の減少



### 強日本大震災の発生

自助・共助・公助という考えの下、  
県内全域の防災力の向上が必要に

## 社会の激しい変化と 将来への展望

### 社会の情報化(デジタル化)の進展

「教育・人材」の分野における利活用、  
情報モラル教育の促進が必要に

### グローバル化の進展

国際的な競争力の維持・充実と  
それに対応できる人材の育成が必要に

### 雇用環境の変容と社会的・ 経済的格差の進行

地域間格差、世代間・世代内の  
社会的・経済的格差の拡大

## 実施する3つのプロジェクト

### I 志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てる～夢・チャレンジプロジェクト～

**知 徳 体** **キャリア教育** **グローバル化** 子どもたちに育てたい5つの資質・能力を、  
施策の柱に据える

- 学力向上** 学力向上プランの成果を継承しつつ、志と学ぶ意欲の重要性を念頭に、主体的な学びを推進
- 道徳教育** 先進的かつ個性豊かな千葉県道徳教育の定着と更なる深化(現場での工夫と実践)(大学との連携)
- 国際化推進** 国及び郷土の歴史・伝統文化と国際理解・交流の促進、日本人としての自覚・アイデンティティ醸成と世界の多様性の受入、英語教育の推進、国際交流の機会拡大

### II 千葉のポテンシャル(潜在能力)を生かした教育立県の土台づくり～元気プロジェクト

- 学校連携** 小中一貫校の検討、コミュニティスクールの推進など、国の動きを踏まえ、対応を拡充  
公立学校と私立学校の連携の推進
- 条例制定** 条例制定、基本方針策定を踏まえ、新たに施策の柱として明示、予防・早期発見、  
情報モラル教育等を明記
- 幼児教育** 幼児期からの教育と保幼小連携などの連続性を重点としてとらえ、新たに施策の柱として明示  
「子ども子育て支援新制度」の下、福祉部門等との連携や指導人材の育成を一層重視
- 進路支援** 過密化解消と連続性のある多様な学びの場に対応する環境整備、指導人材育成が柱  
早期からの相談体制、卒業後の自立支援を新たに明示
- 生涯学習** 生涯スポーツの推進、スポーツ環境の整備、オリンピック・パラリンピックに向けた競技力向上
- 施設整備** 学校施設の耐震化は27年度に完了、以後、老朽化対策を推進  
図書館をはじめ、社会教育施設の耐震化などを新たに明示

### III 教育の原点としての家庭の力を高め、人づくりのために力をつなげる～チームスピリットプロジェクト

- 地域連携** 学校を核とした地域コミュニティ構築、地域人材の活用、学校の地域貢献、高等教育機関  
との連携
- 福祉連携** 生涯学習の視点のもと、学び直しの重視  
福祉部門等と連携しつつ、経済的・家庭的理由など様々な困難に対応

### 千葉県のポテンシャル

- 多様な人材 ・首都に隣接 ・バランスのとれた産業
- 温暖な気候 ・海と空の玄関
- 大学や研究機関の集積 ・盛んなスポーツ・文化活動
- 2020 オリンピック、パラリンピックの開催決定

### 第1期計画で 残された課題

- 「生きる力」の確実な育成
- 社会的・職業的自立に向けた  
能力・態度の育成
- グローバル化に対応した教育の展開

### 新たに対応 すべき課題

- 様々な教育改革への対応
- 教育格差の解消
- 地方創生

「子どもたちに夢と志を」  
「人としての在り方・生き方を考える教育を」  
「自国について海外に発信できる力を」  
「豊かな学びを支える学校づくりを」

- 学力向上 ・教員の資質向上 ・いじめ防止
- 道徳教育の充実 ・幼児教育、家庭教育の充実

# 3つのプロジェクトと17の施策

## プロジェクトⅠ 志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てる ～夢・チャレンジプロジェクト～

### 施策（5）

### 重点的な取組の方向性（19）

#### 1 社会を生き抜く力を育む 主体的な学びの確立

- (1) 読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上
- (2) 子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実
- (3) 授業力の向上による学びの深化
- (4) 学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進

#### 2 道徳性を高める実践的 人間教育の推進

- (1) 豊かな人間性を育む千葉ならではの道徳教育の展開
- (2) 社会の一員として必要な力を育む教育の推進
- (3) 五感を通して学ぶ体験活動の推進
- (4) 自他ともに尊重し命を大切にす心の教育の推進

#### 3 生きる力の基本となる 健康・体力づくりの推進

- (1) 体力向上を主体的に目指す子どもの育成
- (2) 子どもの健康を守る学校保健の充実
- (3) 食を通じた健康づくりの推進

#### 4 社会的・職業的に自立し 地域で活躍する人材の育成

- (1) 系統的なキャリア教育の推進
- (2) 地域を支える人材の育成
- (3) 企業や大学・研究機関等との連携による職場体験等の充実
- (4) 子どもや若者の社会参加の促進

#### 5 郷土と国を愛する心と世界を 舞台に活躍する能力の育成

- (1) 郷土と国の歴史や伝統文化等について学ぶ教育の推進
- (2) 多様な文化を認め合う国際社会の担い手の育成
- (3) 外国語教育の充実
- (4) 外国人児童生徒等の受入れ体制の整備

## プロジェクトⅡ 学びの場としての学校づくり ～学びの場づくりプロジェクト～

### 施策（9）

### 重点的な取組の方向性（29）

#### 6 人間形成の場としての 活力ある学校づくり

- (1) 魅力ある高等学校づくり
- (2) 私立学校の振興
- (3) 公立学校と私立学校の連携の推進
- (4) 地域に開かれた魅力ある学校づくり
- (5) 豊かな学びを支える学校・学習環境づくり

#### 7 教育現場の重視と教員の 質・教育力の向上

- (1) 熱意あふれる人間性豊かな教員の採用
- (2) 信頼される質の高い教員の育成
- (3) 子どもの多様化に対応したきめ細かい教育の推進
- (4) 教職員の負担軽減と学校問題解決のための支援

### 8 いじめ防止対策の推進

- (1) いじめの予防や早期発見のための取組の推進
- (2) いじめの防止等のための人材の確保と資質の向上
- (3) いじめの防止等のための啓発活動の推進
- (4) インターネットを通じて行われるいじめへの対策の推進

### 9 人格形成の基礎を培う 幼児教育の充実

- (1) 教職員の専門性の向上をはじめとした幼児教育の質の向上
- (2) 小学校就学前教育から初等教育への円滑な接続

### 10 一人一人の教育的ニーズ に応じた特別支援教育の推進

- (1) 早期からの教育相談と支援体制の充実
- (2) 連続性のある多様な学びの場と支援の充実
- (3) 特別支援学校の整備と機能の充実
- (4) 卒業後の豊かな生活に向けた支援の充実
- (5) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

### 11 読書県「ちば」の推進

- (1) 家庭や地域における子どもの読書活動の支援
- (2) 学校等における読書活動の推進
- (3) 図書館における読書活動の充実

### 12 フェアプレーの精神を育て、楽しさや 感動を分かち合うスポーツの推進

- (1) 「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進
- (2) 人々に夢と感動を与える競技力の向上

### 13 ちば文化の継承と新たな創造

- (1) 文化にふれ親しむ環境づくり
- (2) 文化財の保存・継承

### 14 安全・安心な学びの場づくりの 推進

- (1) 校舎等の計画的な整備、バリアフリー化の促進
- (2) 東日本大震災を教訓とした防災教育と安全教育の推進

## プロジェクトⅢ 多様な人材としての役割を担い、人づくりのための力を育てる ～チームスピリットプロジェクト～

### 施策（3）

### 重点的な取組の方向性（12）

#### 15 親の学びと家庭教育への支援

- (1) 人間形成の土台となる家庭教育への支援
- (2) 学校・家庭・地域が連携した家庭教育の推進
- (3) 親となってかけがえのない子育てを行うための教育の推進

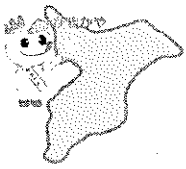
#### 16 つながりや支え合いによる 地域コミュニティの形成と 生涯学習社会の実現

- (1) 学校を核とした地域コミュニティの構築と子どもの学びへの支援
- (2) 生涯学習社会を目指した取組の推進
- (3) 社会教育推進体制の強化
- (4) 高等教育機関との連携
- (5) 県教育委員会と市町村、私学等との連携強化

#### 17 学びのセーフティネットの構築

- (1) 子どもや家庭に対する相談支援体制の充実
- (2) 学び直しなどの再チャレンジに対する支援の充実
- (3) 経済的・家庭的理由など様々な困難への支援
- (4) 虐待など不適切な養育から子どもを守る取組の充実・強化

※「施策」と「重点的な取組の方向性」の後の括弧書きは、それぞれの項目数です。



# 生きる力を育むために



PLAN

## 俯瞰

### 子どもの視点からつくる授業

- 1時間及び単元の見通しが持てる学習過程
- 明確で、適度な負荷がある課題
- 思考する時間の確保
- 指導に基づく評価、評価を生かした指導

教師に求められるもの・・・

それは「専門性」「情熱」「共感」

「専門性」とは、  
教科の知識・指導の方法・技術を有すること

「情熱」とは子どもを動かす先生の熱き思い

「共感」とは、  
子どもの不安・怒り・喜び・願いなどを  
受けとめること

### 知識・技能が定着する授業



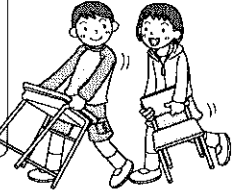
- ねらいを明確にした体験的な活動
- 具体物、ICT等の積極的活用
- くりかえし学習
- 家庭と連携した家庭学習

確かな  
学力

## 学び合い 高め合う授業

だれにでもわかりやすく、安心して受けられる教育環境  
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れて～

- 子どもたちにとってわかりやすく整理され、一貫性のある指導
- 一人一人が認められ、大切にされる授業
- どの子の意見にも共感し、みんなでフォローしていける授業
- 授業に集中できるように工夫された教室環境と最小限の指示・発問



Do

豊かな  
心

### 相互の信頼関係を築く授業

- 間違いや異なる意見を受け入れられる学級
- 授業ルールの確立
- 自己決定場面の設定

伝え合うことにより、  
一人一人の考えがみんなに広がる授業

- 思いや考えを深めるための、教材や発問の工夫
- ねらいを明確にしたグループ学習やペア学習等の積極的活用
- 記録、要約、説明、論述、討論など、知識・技能を活用する言語活動の充実

健やかな  
体



鎌ヶ谷市 鎌ヶ谷

## 安全安心な学校

## 地域とともに歩む学校

## 凡事徹底

ACTION

すべては、

鎌ヶ谷市の子どもたちのために！

CHECK

# 鎌ヶ谷市学力教育指導の指針

## 「学び合い高め合う授業」をめざして

鎌ヶ谷市教育委員会では、生きる力の育成をめざし『学び合い高め合う授業』をめざして』をテーマとした授業づくりを推進します。

### 伝え合うことにより、一人一人の考えがみんなに広がる授業

今、子どもに付けたい力である「考える力」と「コミュニケーション能力」を伸ばすために、言語活動の充実と自分の考えを上手に伝え合う場の工夫が必要です。

子どもに自分の考えを持たせるには、自ら考えたい教材、心が揺さぶられる資料、多様な考えを引き出す発問が不可欠です。また、自他の考えの違いに気づかせるために、少人数等での話し合いの場を設定します。そこでは、何のために話し合うか、何を解決すればいいかという視点を明確にします。それぞれの考えを自分の言葉でぶつめ合うことにより、考えが深まり、互いを高め合うことにつながります。

### 相互の信頼関係を築く授業

生徒指導の目標は、自ら考え判断し行動するという自己指導能力の育成です。1時間1時間の授業の中に、友だちや先生に安心して考えを伝え、どんな意見の違いも認め合える温かい人間関係が必要です。そして、この学級の中で安心して学習できるという自己存在感が感じられ、学習の中に自己決定する場を設けることが大切です。自由に意見を言い合える雰囲気は授業の中でつくりあげるものです。

### 子どもの視点からつくる授業

子どもの実態を的確に把握した上で、学級や個々の能力・意欲から考えた、明確で「適度な負荷のある課題」を設定し、その解決に必要な時間を確保することが大切です。そして、1時間の授業を集中させて取り組ませるためには、子ども自身が1時間の流れが見通せる学習過程を示すことも重要です。また、子ども自身に授業を振り返らせることは、学習の定着・学習意欲の向上につながります。

教師自身は、授業の質を高めるために指導と評価の一体化を進めることが肝要です。

### 知識・技能が定着する授業

考え判断し表現する力の土台となるのが、基礎的な知識・技能です。

知識・技能は、具体物・ICT等の活用や、自ら体験する活動をする中でより理解が深まります。そして「くりかえし学習」「個に応じた支援」「家庭と連携した家庭学習」により、確実に定着させる必要があります。

### だれにでもわかりやすく、安心して受けられる教育環境 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れて～

授業においてユニバーサルデザインの視点を取り入れることは、障がいのあるなしに関わらず、すべての子どもにとってわかりやすく情報が伝わり、学習意欲を喚起し、集中して考えやすい教育環境をつくることにつながります。必要な子どもには「ない」と困る。通常の子どもの「あると便利」な支援が行き届くことで、よりわかりやすく、より集中できる教育環境が整備され、すべての授業の土台となっていきます。

### ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業・学級づくり ～子どもたちの「できた!」「わかった!」「またやりたい!」のために～

#### <ユニバーサルデザインの3つの合い言葉>

シンプル（単純化） ・ ビジュアル（可視化） ・ シュア（共有）

<具体的な支援の一例>

- ① 個別的配慮
  - ・学習の見本、手本等視覚的な手がかりを示す。 ・やろうとしている部分に注目し、褒める。
  - ・問題の量や内容を工夫したスモールステップのプリントや、ヒントカードなどを用意しておく。
- ② 授業づくり
  - ・授業の流れをある程度パターン化する。 ・学習問題とまとめを必ず板書する。
  - ・学習課題に関して、予想されるつまづきへの手立てを用意する。
  - ・指示は、一文一動作で、発問はよく練って簡潔に。言い換えをしない
- ③ 学級づくり
  - ・教室前面の黒板周辺の掲示物は必要最小限にし、刺激を減らす。
  - ・グループ活動等、協力し、助け合う場面を意図的に取り入れる。



特別支援学級  
ニーズに応じた指導・支援

共有化

通常の学級  
わかりやすい授業

確かな学力を育むために

思いやりのある  
豊かな心を育むために

- ・市教委訪問による指導
- ・鎌ヶ谷市学力調査の結果と分析を生かした授業改善
- ・読書活動の推進(学校図書館司書の全校配置、蔵書数の拡大)
- ・教育課程を工夫した授業時数の確保
- ・国際理解教育、外国語活動の推進(ALT 8名の活用)
- ・きめ細かな学習指導の推進(少人数教育指導教員「きらり先生」の全校配置)

- ・魅力ある道徳の授業づくりの推進
- ・体験活動を生かした道徳的実践活動
- ・パラリンピックキャラバン JFA「夢の教室」の実践
- ・地域人材の活用
- ・JRC 活動の推進
- ・いじめ総点検調査
- ・平和教育生徒派遣事業
- ・ピアサポートの実施

健やかな体を育むために

- ・体育の授業の充実
- ・「遊・友スポーツランキングちば」の積極的な活用
- ・部活動外部指導者の活用

すべての子どもへの適切な支援のために

- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の推進
- ・特別支援教育推進指導員「ほほえみ先生」の全校配置(大規模3校には各2名配置)
- ・心理発達相談員による巡回相談の実施、特別支援コーディネーターとの連携推進
- ・生徒指導の機能を生かした「わかる授業」の展開

### 安全安心を守るために

- ・安全安心の日(毎月10日、安全点検の実施)
- ・第二次通学路安全対策推進行動計画の実施
- ・児童生徒安全パトロールの実施
- ・災害における対応(危機管理マニュアルの更新及び市内小中学校合同避難訓練の実施、MCA無線の活用、緊急連絡メールの活用、給食食材の放射能検査)
- ・スケアードストリート交通安全教室の実施
- ・小学校自転車安全運転講習会の実施
- ・AEDの配備、点検